

かつ

子ども

シニア

# がんの教室

④2

田中 伸哉

心臓にはがんはできないと思っている人も多いようだ。しかし極めてまれではあるが、心臓にも筋肉や血管に由来するがんができる。これは心臓肉腫と呼ばれる。

肉腫は骨、脂肪、筋肉など骨格、体格をつくる成分ががんになったもの、と以前このコラムで講義した。骨からは骨肉腫、脂肪からは脂肪肉腫、筋肉からは横紋筋肉腫、関節を内側から包む滑膜かつまくという膜からは滑

## 肉腫

### 原因の多くは染色体異常



イラスト・柿崎 ぜんこう

膜肉腫ができる。

年間88万人ががんにかかるが肉腫はその1割だ。肉腫は小児や若年成人に多く、以前は骨肉腫は若い人に行える治らない病気の代表だった。

肉腫の多くは染色体の異常が原因でおこる。まず腫瘍のできた場所がはれるので異変に気づき、染色体検査によって診断される。

30年以上前は骨肉腫になると手や足を切断するしか治療法はなかった

が、その後、切る範囲を最小限にできるようになった。また大量の化学療法と組み合わせることで現在は5年生存率もおおよそ70%にまで上がっている。

2020年東京五輪・パラリンピック招致のプレゼンテーションを行った佐藤真海選手は、学生時代に骨肉腫のため右足の膝から下を切断せざるを得なかった。その後右脚に義足を装着し不屈の精神でパラリンピックなどで活躍している。

肉腫は、患者数が少ないため治療法が確立されていないものも多い。横紋筋肉腫など若い人に多く、悪性度が非常に高いのだが、外科手術以外に有効な治療法がないものもまだまだ多い。最近、染色体の動きを制御する薬の開発がアメリカで相次いでいるので、早晚日本でも使えるようになることが期待されている。

(たなか・しんや―北大医学部腫瘍しゅよう病理学教授)